

技術者育成フォーラム シノポジウム

三方よしのインフラメンテナンスin福島(H29.3.7)開催報告

主催：(公社)日本ファシリティマネジメント協会
インフラメンテナンス国民会議

- インフラの維持管理において、包括的民間委託等の民間のノウハウを活かす手法の導入が各地で進められている。今回は、特に地域の担い手側に求められる役割や技術の方向性について官民の事例紹介を通して、第1部、「行政側の期待」「住民・企業側の模索」を各発表者から、第2部、それぞれの立場からの視点でのパネルディスカッションという内容で開催した
- 福島県はじめ全国から、企業、自治体、大学、市民と約150名が参加した
- パネルディスカッションでは、イメージ・評価を上げて人材不足を解消、女性の参画の期待の意見、特に市民の視点からと、地元出身トリアスアロニアからのパネリストからの新鮮な意見で盛り上がり、会場からも積極的な意見が続いた

◇第1部 開会挨拶～話題提供・事例発表

- 協会挨拶 日本ファシリティマネジメント協会(JFMA) 専務理事 成田氏
- 話題提供『インフラメンテナンス国民会議が目指すもの
～インフラメンテナンス革命～』
国土交通省 総合政策局 交流連携事業調整官 安原氏
- 行政側の期待
 - ①『過疎地における地域建設業協働組合の包括維持管理』 木村氏
福島県土木部道路管理課主任主査
 - ②『一部移管後の国道4号および県道の包括的維持管理の施行と経過』
福島県県中建設事務所企画部管理課主任主査 小野田氏
- 住民・企業側の模索
 - ①『民間企業による新たな発想の有料道路の管理・経営』
株式会社 ガイアート 道路維持戦略室 課長 渡邊氏
 - ②『未来のメンテナンスのための新設工事～漏水を未然に抑制する
トンネル設計改善』
寿建設株式会社 代表取締役 森崎氏
 - ③『住民と協働による道づくり&橋守プロジェクト』
日本大学工学部土木工学科 教授 岩城氏



挨拶 JFMA 成田氏
人が中心となり、企業と社会が、バランス良く
なれるよう『三方よし』の考え方の下、建物だけでなく、
インフラ施設もファシリティマネジメントすることが重要



会場



福島県 木村氏



小野田氏



日本大学 岩城教授



寿建設 森崎氏



ガイアート 渡邊氏



国土交通省 安原氏

技術者育成フォーラム シンポジウム

◇第2部 パネルディスカッション

テーマ：「住民よし」「企業よし」「行政よし」の視点から新たなメンテナンスの展開
 ～三方よし、地域の担い手(官民連携)の役割と活躍～

議論の進め方： セッション1 何が問題か。何に変えるか
 セッション2 何に変えるか。好ましい状態に
 セッション3 どうやって変えるか。アイデア 会場の参加者とトークセッション

・コーディネーター：

鈴木氏

実行委員 技術者育成フォーラムリーダー

・パネリスト：

- 福島県土木部道路管理課 主任主査 加藤木氏
- 日本大学工学部 教授 岩城氏
- NPO法人わ トライアスロンアカデミー福島 菊池氏
- 寿建設株式会社 代表取締役 森崎氏
- 株式会社ガイアート 道路維持戦略室 室長 幸野氏
- 国土交通省 交流連携事業調整官 安原氏

主なコメント

- ・ 職種としてリスペクトされる姿へ。儲かることも大切。女性目線も取り入れて、「汚い」から「きれい」へ (加藤木)
- ・ 複数年契約の維持管理で投資しやすい環境づくりを (幸野氏)
- ・ 三方よしの考え方を取り入れて、一般市民からの理解を得られる方法の導入に知恵を絞るべき (森崎氏)
- ・ 地域住民とともに、インフラメンテナンスを盛り上げていく工夫が必要。国から国民への「垂直型」と自治体・企業・市民による「水平型」の連携、両者のバランスを (岩城氏)
- ・ 言葉のハードルで興味を削ぐことのないように。ユーザーから情報発信・共有が簡単にできれば (菊池氏)
- ・ 国民会議に積極的に参加して皆さんで少しずつ問題解決を (安原氏)
- ・ 住民も知る機会を得ることで、理解と参加意識が得られる。(会場)

導入： 問題は山積しているけど、コアな問題は数個かもしれない。それぞれ相手の立場のなあって考えてみると妙案が生まれてくる。コアな問題点は解決できると思うことが大切では。
 人って、結構思い込みで損をしていませんか。
 コーディネーター 鈴木氏



福島県 加藤木氏



ガイアート 幸野氏



アスリート 菊池 日出子氏



会場からの意見



トライアスリート 菊池日出子
NPO法人 わ トライアスロンアカデミー福島
 〒970-0840 福島県いわき市平田1-1-1 株式会社福島大学

福島フォーラムアンケート集計結果

回収数 61

1.あなたの立場をお聞かせください

	回答数	割合
①産	46	75.4%
②官	7	11.5%
③学	3	4.9%
④民	4	6.6%
⑤その他	1	1.6%

※その他回答

金融機関

2.このシンポジウムをどこでお知りになりましたか (複数回答有)

	回答数	割合
①協会ホームページ	7	11.5%
②インフラメンテナンス国民会議メールマガジン	6	9.8%
③新聞紙上	7	11.5%
④知人からの紹介・口コミ	33	54.1%
⑤その他	9	14.8%

※その他回答

取引先からの紹介/会社より/ふくしまインフラ研究会/職場社内回覧/
岩城先生から/会社関連/寿建設より紹介/丸のみの回答

3.ご参加の動機をお聞かせください (複数回答有)

	回答数	割合
①インフラメンテナンスの必要性に関心があった	39	63.9%
②インフラ維持管理の方法にこまっている	2	3.3%
③業務として・勤められて	17	27.9%
④聴講したい講演者がいたので	14	23.0%
⑤その他	5	8.2%

※その他回答

地域公共交通の維持・確保について調査研究しているため/
土台の管理について/組合に関心/情報収集
知ることによってヒントが得られればと期待して/福島県の動向を知りたかった/
福島県発のインフラメンテナンスのモノづくりの情熱を感じたから/

4.シンポジウムの感想をお聞かせください

(無回答有)

	回答数	割合
①とても参考(勉強)になった	38	62.3%
②やや参考(勉強)になった	19	31.1%
③普通	4	6.6%
④ややつまらなかった	0	0.0%
⑤つまらなかった	0	0.0%

5.シンポジウムの内容で良かったものをお聞かせください

(複数回答有)

	回答数	割合
①行政側の期待講演	31	50.8%
②住民・企業側の模索講演	44	72.1%
③パネルディスカッション	26	42.6%
④福島県の製品の紹介	4	6.6%
⑤その他	1	1.6%

※その他回答

日大岩城先生のお話

6.インフラの長寿命化、メンテナンスに関して重要なことは何だと思いますか

	回答数	割合
①担い手・技術者の確保	44	72.1%
②法制化・基準・効率化のマネジメント手法	22	36.1%
③地域協働・住民参加(意識)	35	57.4%
④革新的な技術	21	34.4%
⑤その他	7	11.5%

※その他回答

1~4に加え産・官・学・民で連携の**成功事例**をひとつでも形成することかと/

予算の確保/財源/メンテナンスコストの削減/

業(ナリワイ)として成り立つ→利益が出る→後継者が出てくる/

組合設立/将来の維持管理を考慮した新設

7.シンポジウムへのご意見・ご要望

～パネルディスカッションについて～

- ・パネルディスカッションの議論を整理し公表していただきたい
(最終とりまとめのPPTがベース)
- ・専門家(産官学)以外のパネラーを、あと1人位、増やす
(地域のボランティア経験者etc.)
- ・パネルディスカッション、包括発注でも話題になっていたが、**取人(実際に作業する人)の地位を向上することが、担い手確保で重要**。補修工事の取人は多能工にならないと儲からないと思われるので、そういった技能を有した技術者を育成するよう、働きかけが必要だと思う
- ・パネルディスカッションにまとめがあったことは非常に良かった
- ・パネルディスカッションで活発な意見が聞けて、とても良かったです。話にあったように**インフラメンテナンスの国民への情報発信が必要だ**と感じました。

～講演について～

- ・大変良い講演でした
- ・日頃聞けない業者、教授等のお話が特に参考になった
- ・「住民よし」の視点から道路ユーザーの要望などを含む講演があってもよいかと思った
- ・既に実施している新技術を採用した事例も紹介してほしい
- ・鉄道事業者の参加が必要なのでは？(弱いのでは?)

～フォーラム全体について～

- ・情報の共有は力になりますね。福島での開催ありがとうございます
- ・今後もこういったシンポジウムを是非、継続して開催して頂ければと思います
- ・インフラメンテの活動の現状が大変理解できた
- ・やはり予算がなければ根本的に厳しいのでは？多少でも増やすこと

～参加者の拡大について～

- ・来年度も開催を望みます。告知(チラシを郵送するとか)を広く(国の機関にも)早めにして欲しい
- ・一般市民の参加を促して、意見を頂くと良いのでは
- ・女性の参加者が少なく、土木業界の現状を表していると感じた。より多くの方に知ってもらいたい。
- ・なかなか良かった。女性の参入を心掛ける

～インフラメンテナンスへの市民参加について～

- ・いいシンポジウムでした。市民参加をいかに進めるか、課題ですね。そこを突破できれば風景がかわるかも！！
- ・有意義なシンポジウムでした。あたり前のみちのために、業界だけでなく、一般住民が何ができるか

～その他問題について～

- ・カソ化の問題解決が重要
- ・産・官・学・民が一体となって事業を進めることが重要でないかと思った
- ・1980年代の「荒廃するアメリカ」を教訓とすべきであり、社会インフラのメンテナンスの重要性を、住民に理解していただくことに力点を置いてもらいたい

8.インフラメンテナンス国民会議に今後期待すること

～活動情報の周知～

- ・国民会議は初めて聞きましたが各地方局でされているのか？情報公開してもらいたい！
- ・一般市民、団体等が多く参加出来る様なPRも含め重要。仕掛け、仕組み造りが必要か？

～インフラメンテナンスの周知～

- ・メンテナンスの必要性、重要性。取組む担い手が不足していることなどを**住民（国民）へPR**
- ・より多くの市民に浸透していくようなしかけ（PR、広報、イベント開催）
- ・このような活動を積極的に実施し、インフラメンテナンスに関する世論の関心を高めて頂きたい
- ・広く国民への周知（必要性、緊急性）が図られる事を希望
- ・女性含め、国民の皆さんによりインフラに関する理解をして頂ける様な活動を期待しております。
- ・民が騒がないと官は動かない→インフラメンテの理解を民に浸透させ官を動かすために、宣伝活動を行う事が重要ではないかと思えます→インフラメンテの必要性が国民の声になる様、尽力をお願い致します

～フォーラム・国民会議への期待～

- ・正に国民会議として、女性の参加、若者の参加しやすい組織となる様にお願いします。
- ・女性への関係者を増やす事が大切
- ・先導役を担うこと
- ・新しい技術に興味あり→予算獲得に向け、補助制度は？基準は？会検対応？
- ・全国的な事例発信が聞けるようなシンポジウムの開催する事を熱望します
- ・維持管理に要する予算の更なる確保
- ・県民会議、市民会議などローカルな活動の展開可能な枠組を検討願います
- ・官がかかえる問題と民の技術がどうマッチングして活用しているのか、官がどう採用していけるのか。問題解決して効率よりメンテができるよう期待しています（特に新技術と技術者育成）
- ・自動車業界が道路インフラに求めているものがわかるとおもしろい
- ・補修事業に携わる技術者が世間に認められる世の中になってほしいです
- ・どんどん盛り上げる取り組みを期待です
- ・頑張ってください
- ・維持修繕、メンテナンス技術、建設需要の増大、財源確保の国民的議論につなげていただきたい
- ・プラットフォームを活かしてほしい